



夏休みの学校

校長 阿部 卓

44日間の夏休みが終わりました。夏季プールの前半は、たくさんの子供たちがプールにやってきますし、学習補充教室などでも子供たちが登校しますので、学校には賑やかさが残っていました。また、夕方になると、地区班の子供会が校庭等で開かれ、保護者の皆様が見守るなか、日が沈むまで水鉄砲や花火に興じる楽しい声がしていました。

雨で気温が上がらない日があり、プールを中止にすることがありました。それから、激しい雷雨で子供会が中止になるなど、天候の影響で残念なこともありました。

この時期には例年と同じに、各学級の床にはワックスが塗られました。廊下、階段にも、トイレにもワックスが塗られています。木の床、ビニールシート、タイルなど、素材が違いますので、ワックスもそれに合わせたものを使っています。

外部に依頼するわけではなく、教職員がすべてやっています。校舎内は暑い空気が溜まりやすく、窓を開けても高温になります。その中で、乾いてはまた塗りといった重ね塗りをしていくのです。机などを動かしますので、きつい作業です。暑いからこそワックスが柔らかくなり、均等に伸びやすくなるので、効果が目に見えることが励みです。

プールの中休みの期間になってから、特にお盆の前後には猛暑日が続きました。校庭開放も休みでしたが、開放の予定があったとしても中止にせざるを得ないような高気温でした。飼育委員の子供たちがウサギの世話に来て、職員室に顔を出してくれることを頼もしく感じました。

プール後半の開始前日には、プール清掃を行いました。春にプールの濾過器を取り替えていただきましたので、水質はこれまで以上に程よく保たれていました。翌日から予定通りに水泳指導ができました。最後の3日間、天気はまずまずでしたが、時折吹く風に秋の気配がしてきました。子供たちは水から上がると寒いと言ってふるえていましたが、毎日プールに通ってきた子供も多く、日焼けしていく様子にたくましさが見えました。

久しぶりに体育館にもワックスが塗られました。光沢が出てずいぶんときれいになりました。運動しても滑りにくい性質のワックスを使っています。教室に比べるとずっと広い体育館です。やはり重ね塗りをしましたが、交代制をとって作業が行われました。

さらに、子供用の木製の靴箱にはニス塗られています。雨を含んだ土や砂の付いた靴が載せられると、やがては木が傷んでささくれが出てきます。子供の靴がないこの時期に手入れをすることで長持ちをさせています。

子供たちが学校に戻り平常の生活が始まれば、数日で光沢は失われます。それでよいのです。きれいに使うように心がけても、人間が生活すれば汚れを生み出すことになります。そのまま放っておくのではなく、日々の手入れとともに、年に一度の大きな手入れによって輝きを取り戻し、輝いた姿を皆で実感することが大事なのです。

老朽化が激しい本校の校舎ですが、こうした気持ちで教職員は夏休みを過ごし、子供たちを待ち受けていました。

○ お知らせ

この3月に退職するまでの2年間、本校の2、3学年の音楽を担当するとともに合唱団のご指導もしていただきました、清水 等先生が、病氣療養中のところ、8月13日にご逝去なさいました。ご冥福お祈りし、皆様にお知らせいたします。

